

成田空港緊急戦略プロジェクト会議 説明資料



2010年 1月 27日

IBEXエアライズ株式会社

当社成田発着便の歩み

2002年 4月 暫定平行滑走路供用開始と同時に、成田－札幌/仙台/伊丹を国内ファイダー便として就航

2003年 8月 成田－広島 就航

2004年11月 成田－小松 就航

2009年度の当社の状況

成田－札幌/仙台/小松/広島 4路線(1日4往復8便)

【搭乗実績】

路線	旅客数
成田－札幌	27,448名
成田－仙台	19,299名
成田－広島	26,204名
成田－小松	19,532名
合計	92,483名

2009年1月～12月実績



【主な国際線乗継ぎ】

出発

国内ファイダー便 到着時間	主な乗継可能国際線
午前 広島 (9:25) 小松 (9:40)	ニューヨーク、ワシントンD.C.、シカゴ、ロンドン パリ、フランクフルト、シンガポール、バンコク、北京 等
午後 札幌 (15:25) 仙台 (17:00)	ロサンゼルス、サンフランシスコ、シンガポール、バンコク 等 ホーチミンシティ、台北、香港、モルレル 等

到着

主な乗継可能国際線		国内ファイダー便 出発時間帯	
シンガポール、バンコク、ホーチミンシティ 等	午前	仙台 (10:30)	札幌 (11:30)
ニューヨーク、ワシントンD.C.、シカゴ、ロンドン パリ、フランクフルト、シンガポール、バンコク 等	夕方	広島 (17:25)	小松 (19:30)

国内フィーダー便としての当社戦略

① 小型機の運航による需給バランスへの適合

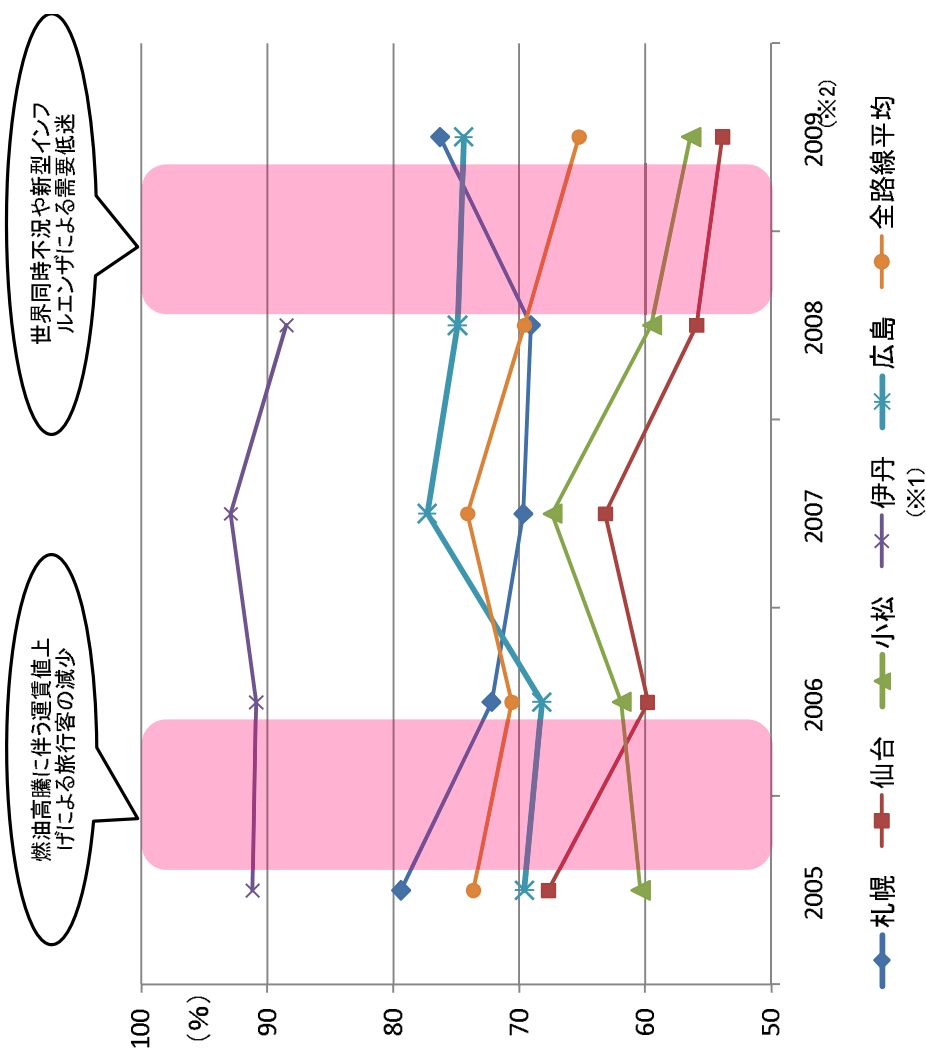
地方発の国内フィーダー便では中・大型機では採算性が困難であることから、小型機(50席クラス)を導入することで、需給バランスに適合した路線運営をおこなっている。

② 業務提携を活用した旅客利便性の確保

国内フィーダー便の特性を活かすためにANA・ユナイテッド航空・オーストリア航空等とコードシェア契約を締結。それにより搭乗旅客に対し提携各社の内際乗継ぎサービスを提供可能としている。

(例) 地方空港出発時に国際線分の搭乗手続きと手荷物受託をおこなない、成田空港では出国手続きのみとするサービス。(ANA)

<参考> 国内フィーダー便平均搭乗率推移 (2005年～2009年度)



(※1) 伊丹線は、2009年3月まで運航
(※2) 4月～12月平均搭乗率

当社が考える成田空港の競争力強化と課題

成田空港を活かし千葉県経済の活性化を達成する為には、何より成田空港が国際線基幹空港としての競争力を高め、より内外から注目される空港になることが不可欠である。

それを実現する為には際際・内際・首都圏アクセス等の様々な角度から検討が必要であるが、一つの方策として国内ファイダー便の充実が競争力の強化に貢献すると考える。(ハブ&スポークの充実)

そして、地方発の国内ファイダー便には需給バランスの兼ね合いから、CRJに代表されるような小型機による運航が最適であると考ええる。

一方で、小型機の運航による国内ファイダー便を充実させるためには現在以下の課題がある。

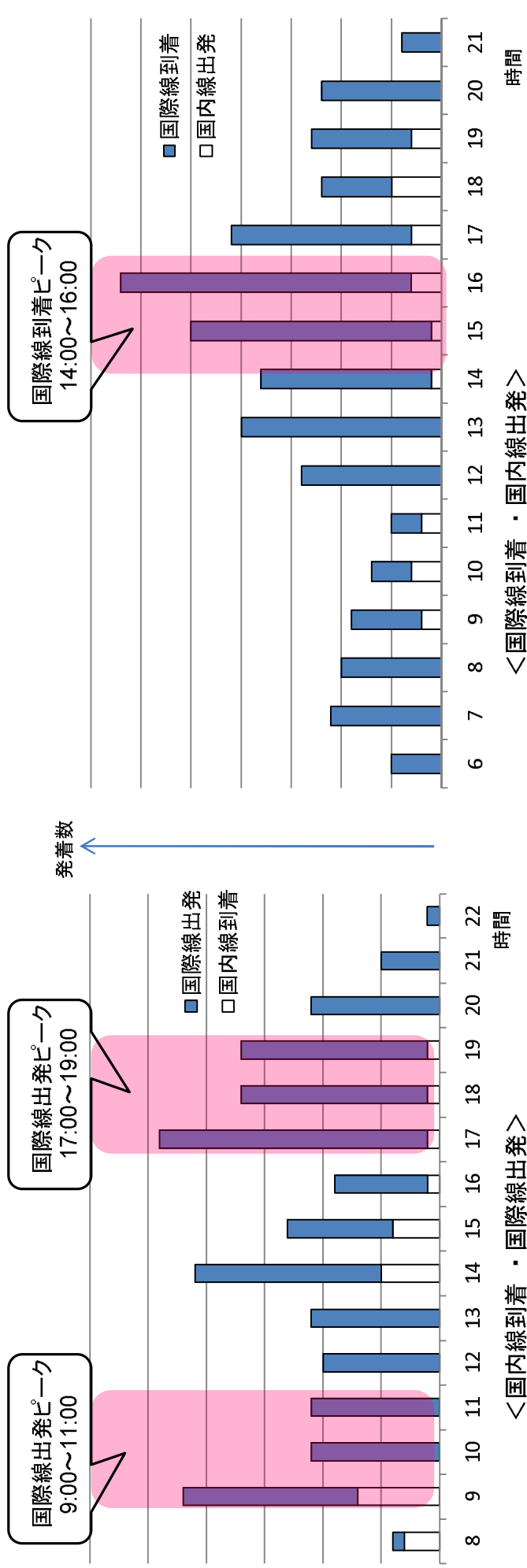
【小型機による国内ファイダー便が抱える主な課題】

- 使用可能な国内線枠は全て埋まっており、増便する為には新たな国内線枠が必要となる。
- 乗継ぎの利便性に適した時間帯の発着枠は既に国際線を中心に埋まっている。(別添 参考資料①)
- 利益率が低い小型機にとって公租公課が大きな負担となっている。
 - ※本邦の公租公課は特に小型ジェット機に不利。
- 空席対策が難しい。(国内線としても利用可能)
- 成田空港で現在使用している小型機SPOTは滑走路までの距離が長く利便性が悪い。(別添 参考資料②)

参考資料① 成田空港の発着枠利用状況

【現状】

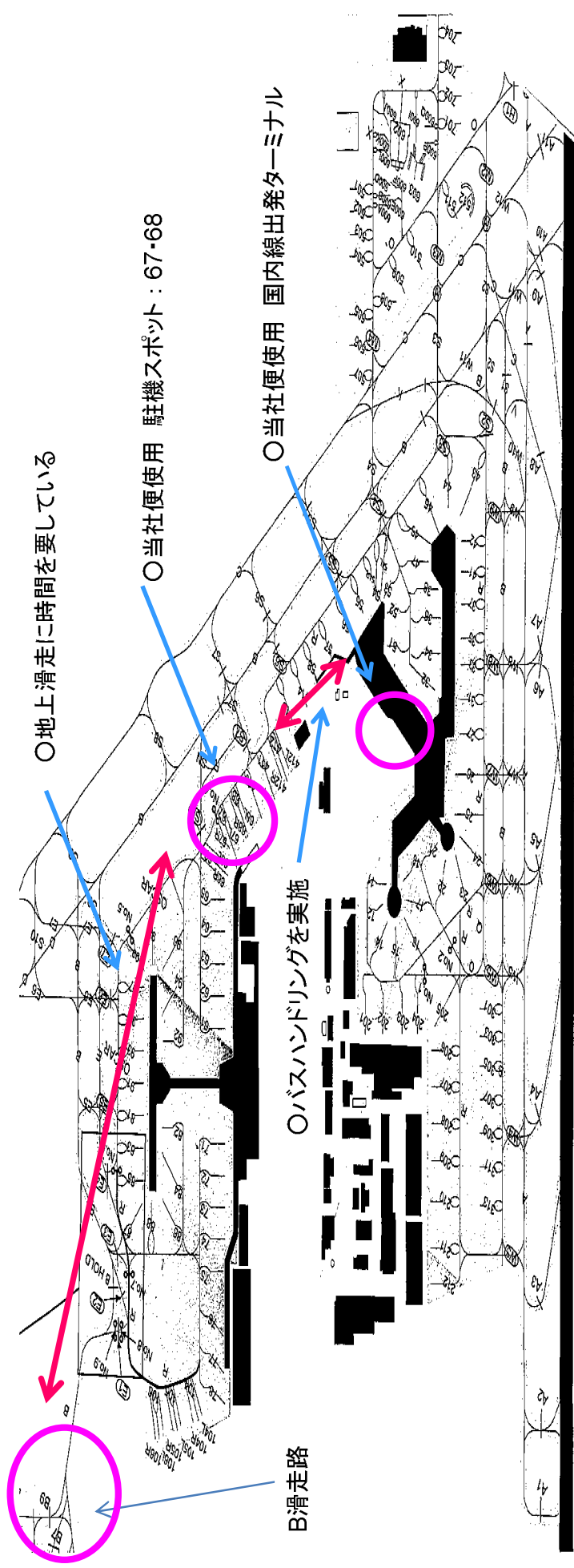
国際乗継ぎの利便性を考慮すれば、国際線の発着ピーク時に合わせ国内フリーダー便を運航させる必要があるが、既にその時間の発着枠は国際線を中心に埋まっている。(下記グラフ参照)



参考資料② 小型機の駐機スポット状況

【現状】

当社は第1旅客ターミナルよりバスにて旅客を輸送し主に67-68番スポットを使用しているが、滑走路までの距離が長く離陸まで20分以上かかるケースがある。



当社が考える課題解決策

① 国内線発着枠の拡大

- ・ 国内線枠の早期拡大
- ・ 内際乗継ぎに有効な時間帯における国内発着枠の解放。
※1時間当たりの発着上限値を向上させる為の改善が必要となる。

② 小型機運航に対する支援の実施

- ・ 小型機の運航に対する公租公課の更なる負担軽減
- ・ 成田空港内における小型機利便性の向上（空港施設、SPOT運用等）

③ 国内ライダー便のPRと空席対策

- ・ 国内ライダー便利用の一層のPR活動
- ・ 空席を国内線として利用いただける為のPR活動